

※グリッドは昭和48～53年度調査時のもの。調査区全体に60m四方の大グリッド設定し、さらに3×3mの小グリッドを設定している。小グリッドの呼称は南北方向にアルファベット、東西方向に算用数字を用いている。
 ※大・小のグリッドはFA70とCA70を結ぶ線を基準線としていることから、方位とは一致しない。

第2図 大木岡貝塚調査区配置図

調査年等		主な調査者	調査地点		概要	
年号	西暦					
大正6年	1917	松本彦七郎		不明		
大正7年	1918	長谷部言人		不明		
大正14年	1925	清野謙次		東側斜面際の台地	貝層調査 縄文中期(大木7~8b式主体)の遺物出土	
昭和2年	1927	山内清男	a	A地点(A-12a貝層付近)	縄文前期(大木1式)の遺物出土	
			b	B地点(A-3貝層付近)	縄文中期(大木8a~10式)の遺物出土	
			c	C地点(A-12b貝層付近)	縄文中期(大木7a式)の遺物出土	
	D地点(地点不明)		縄文前期(大木3~6式)の遺物出土			
	E地点(地点不明)		縄文前期・中期の遺物出土			
昭和3年	1928					
昭和4年	1929			F地点(地点不明)	詳細不明 東北大学考古学陳列館所蔵山内資料に大木7b式の資料あり	
				F'・F''地点(地点不明)	詳細不明 東北大学考古学陳列館所蔵山内資料に大木7b式の資料あり	
			G地点(地点不明)	詳細不明		
昭和23年頃	1948	鎌倉学園考古学部		不明	縄文中期(大木9・10式)の遺物出土	
昭和24年	1949	伊東信雄	d	イ地点(A-8貝層)	縄文前期の貝層調査	
昭和38年	1963	東北大学教育学部 歴史学研究室	e	A地点(A-11貝層)	東貝層調査、縄文前期(4~6式)の遺物出土	
			f	B地点(A-11貝層)	東貝層調査、縄文前期(大木2b式)の遺物出土	
g	C地点(東貝層・A-12b貝層)		東貝層調査、縄文前期(大木5・6式)の遺物出土			
昭和40年	1965		h	D地点(北貝層・A-1貝層)	北貝層調査、縄文前期(大木1式)の遺物出土	
			i	E地点(西貝層・A-3貝層)	西貝層調査、縄文前期(大木5・6式)の遺物出土	
昭和43年	1968	大木囲貝塚の国史跡指定(3月18日)				
昭和47年	1972	七ヶ浜町教育委員会 (七ヶ浜町歴史資料館)		ボーリングによる貝層分布調査		
昭和48年	1973			ボーリングによる貝層分布調査		
			j	第1地点(東貝層 A-11・12b貝層) (西貝層 A-5貝層)	貝層調査	
			k	第2地点(東貝層・A-8貝層)	貝層調査 昭和24年の伊東信雄発掘地点を確認	
			l	第3地点(西貝層・A-5貝層)	貝層調査	
			m	第4地点(東貝層・A-11貝層)	縄文中期後半の竪穴住居跡検出	
			n	第5地点(北貝層・A-1貝層)	貝層調査	
			昭和49年	1974		東貝層(A-8~11・12b貝層)
昭和50年	1975			丘陵平坦部南側	縄文中期の竪穴住居跡検出	
				丘陵平坦部南・東側 (A-7~12b貝層付近)	土壌墓検出	
昭和51年	1976		o	C L50地区(A-9貝層)	東貝層調査、縄文前期(大木2a式)の遺物出土	
				丘陵平坦部西側(A-3・A-5貝層) 東側斜面		
昭和52年	1977		p	C F43地区(A-8貝層)	東貝層調査、縄文前期(大木1~3式)の遺物出土	
			q	C S77地区(A-5貝層)	西貝層調査、縄文前期(大木3~6式)の遺物出土	
			r	F F60・61地区(A-1貝層)	北貝層調査、縄文前期(大木1~2式)の遺物出土	
			s	C S77地区(A-5貝層)	西貝層の調査(前年度からの継続調査) 縄文前期(大木1~2式)の遺物出土	
昭和53年	1978			トイレ・水飲み場付近	遺構なし	
				西貝層崩落地点(A-5貝層)	西貝層調査 縄文前期・中期(大木8b式主体)の遺物出土	
昭和61・62年	1986・87			A地点(A-8貝層)	東貝層調査、縄文前期(大木1~3式)の遺物出土 縄文前期の土壌墓1基(人骨1体)	
平成24年	2012			B地点(A-12b貝層)	土壌2基	

第1表 大木囲貝塚の主な調査・研究の歴史

れる。松島湾では晩期中葉以降に製塩が本格化するとされており、二月田貝塚や鬼ノ神山貝塚では丘陵端部裾の汀線付近から製塩遺構が発見されている。

このように、松島湾と外洋に面する七ヶ浜半島で、海産物をはじめとする豊富な食料資源をもとに豊かな生活が営まれていたことが推定できる。

弥生時代

東宮浜地区の東宮(鳳寿寺)貝塚、水浜貝塚、代ヶ崎浜地区の清水洞窟貝塚、吉田浜地区の二月田貝塚、松ヶ浜地区の林崎貝塚、汐見台地区の鬼ノ神山貝塚などがある。清水洞窟貝塚のような海蝕洞窟を利用する場合もあるが、遺跡の多くは海岸部の低地や低位の段丘面などに立地しており、縄文晩期の遺跡の立地を踏襲している。

松島湾内では、縄文時代と比較して弥生時代の遺跡数が減少する傾向にあり、貝塚の規模も縮小する。隣接する多賀城市大代地区に弥生中期の「柵形囲式」の標式遺跡である柵形囲貝塚が所在するなど、町内でも弥生中期の遺跡が多いが、当該期の様相は不明な点も多い。

清水洞窟貝塚は海蝕洞窟を利用した製塩遺跡で、柵形囲式の土器を中心に縄文晩期～古代の製塩土器、骨篋などが出土している(大場 1948、七ヶ浜町教育委員会 2010)。また、東宮(鳳寿寺)貝塚では、厚さ約 2 m の貝層が確認され、柵形囲式を主体とする土器や製塩土器、回転離頭銚などが出土している(後藤 1966)。

古墳時代

七北田川北部の多賀城市や利府町では、円墳や中小の円墳からなる後期の古墳群が築造される。古墳周辺の集落跡からも古墳前期～後期の遺物が出土し、方形周溝墓なども確認されている。町内では長須賀遺跡から完形の底部穿孔壺が 1 点出土しているのみで、古墳時代の具体的な様相は明らかでない。縄文晩期から継続してきた製塩についても、当該期の明確な遺構がなく、不明な点が多い。

古 代

奈良・平安時代は、それまでの遺跡の減少傾向から一転し、遺跡数が増加する。東宮浜地区の東宮(鳳寿寺)貝塚や左道貝塚、水浜遺跡、花湊浜地区の長須賀遺跡や表浜貝塚、汐見台地区の鬼ノ神山貝塚などがある。これらの多くは海岸部に面する緩斜面や海岸の背後地などに立地し、縄文晩期や弥生時代の遺跡の立地を踏襲している。水浜遺跡では平安時代(表杉ノ入式期)の竪穴住居跡 3 棟と掘立柱建物跡 1 棟、製塩炉 13 基を検出し、製塩を主とする集落跡であると考えられる(七ヶ浜町教育委員会 1992)。左道貝塚では平安時代(表杉ノ入式期)の竪穴住居跡が 32 棟確認されている。清水洞窟貝塚や表浜貝塚では開窩式離頭銚が出土しており、海産資源を積極的に利用していたこともうかがえる。また、東宮貝塚や表浜貝塚ではト骨片が出土しており、集落内の祭祀・儀礼の様相を知る貴重な資料である。

なお、町内には湊浜地区の柵形囲横穴墓群(7 世紀末～10 世紀)、砂山横穴墓群(7 世紀後半～8 世紀初頭)、薬師堂横穴墓群、花湊浜地区の高山横穴墓群、東宮浜地区の水浜横穴墓など多くの横穴墓が分布している。特に、湊浜地区の横穴墓群は本町最大規模のもので、多賀城市大代地区の大代横穴墓群を起点に湊浜の沿岸部まで続く急傾斜地には多数の横穴墓が造営されている。砂山横穴墓群は 13 基の横穴墓が分布し、土師器、須恵器、直刀、ガラス玉などが出土している(宮城県教育委員会 1976)。高山横穴墓群は 15 基以上の横穴墓が分布し、未盗掘の横穴墓から北陸系と考えられる壺 2 点が出土している。高山横穴墓群や水浜横穴墓などは、周辺に同時期の集落(表浜貝塚・水浜遺跡)が伴うことから、玄室形態や副葬品の検討によって隣接する集落の出自などの解明につながる可能性もある。清

水洞窟貝塚では海蝕洞窟内から幼児を含む 37 体の人骨が出土しており、洞窟を墓域として利用している。しかし、こうした横穴墓の多くは、古くから開口しており、海蝕や風化による崩落、倉庫や防空壕への転用といった後世の改変等をかなり受けており、原形をとどめているものは少ない。

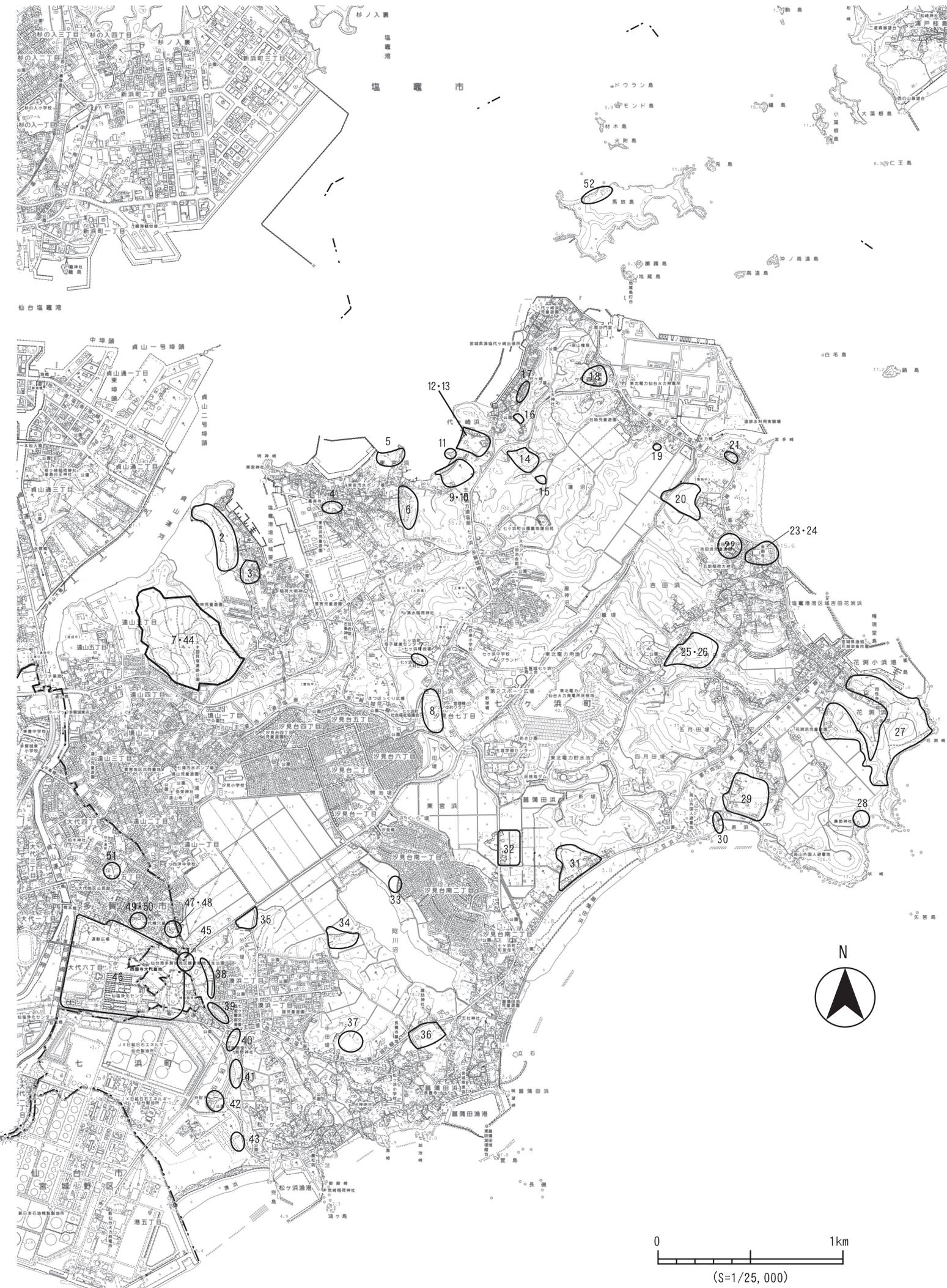
このほか、花湊浜地区の鼻節神社(町指定文化財)から明治時代に発見された青銅製の古印「国府厨印」(町指定文化財)は、成分分析の結果から古代の印と考えられる(国立歴史民俗博物館 1996)。昆布やアワビといった海産物を陸奥国府多賀城などへ供給する「厨」の印であると考えられ、七ヶ浜と多賀城との関係性を知る貴重な資料である。

中世以降

中世の城館跡としては、町東部の海岸段丘上に築かれた花湊浜地区の花淵城跡、吉田浜地区の吉田城跡がある。花淵城跡は留守氏の家臣である花淵紀伊の居城とされ、花湊浜地区の漁業の振興と鼻節神社の保護を行ったとされる。また、吉田城跡は同じく留守氏の家臣の吉田右近の居城とされる。ともに詳細な調査が行われていないため、詳細な縄張りなどは不明である。このほか、湊浜地区の湊浜薬師堂(町指定文化財)の本尊である薬師如来坐像は、平安時代末から鎌倉時代頃の作とされる。これは薬師堂横穴墓の一つであった洞窟の奥壁に彫られた 7 体の磨崖仏で、慈覚大師円仁が一夜で彫ったという伝承が残る。境内には円仁が植えたと言われるカヤの大木が現生している。また、代ヶ崎浜地区には、建治三(1277)年の銘がある町内最古の石碑「建治三年銘古碑」(町指定文化財)があり、梵字により阿弥陀曼荼羅が描かれ、当時の民間信仰を伝える貴重な資料である。

江戸時代に行われた貞山堀の整備や七北田川の改修は、交通や物流に大きな変化をもたらした。貞山堀は江戸～明治時代にかけて阿武隈川河口から北上川河口を結ぶ運河として整備され、全長約 42 kmにも及ぶ全国最長の運河である。寛文 13(1673)年に、町の西部を南北に貫く「御舟入堀」が貞山堀の一部として開削され、七ヶ浜は以降、陸地から分断される形となった。その直前の寛文 10(1670)年には、七北田川の河口を当町湊浜から蒲生村(現仙台市宮城野区)に付け替える工事が完了しており、これまで七北田川河口の港として栄えた湊浜が衰退するなど、七ヶ浜周辺の様子は大きく変化した。

明治 22(1889)年には集落が点在する 7 つの浜を合わせ、七ヶ浜村が誕生した。昭和 34(1959)年に町制を施行し、現在に至っている。七ヶ浜村誕生の前年、明治 21(1889)年には東北地方で最初、全国で 3 番目の海水浴場として「菖蒲田海水浴場」が開設された。翌年には花湊浜地区の高台に「高山外国人別荘地」が整備された。これを契機に別荘地を訪れる外国人と町民の交流が始まり、現在七ヶ浜町は国際交流の町としても知られている。



第3図 大木園貝塚と周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	国史跡 大木圀貝塚	集落、貝塚	縄文前期～後期	27	花淵城跡	城館	平安・中世
2	左道遺跡	集落、貝塚	縄文前期、古代	28	鼻節神社遺跡	散布地	古代
3	小畑貝塚	貝塚、散布地	縄文晩期、弥生、古代	29	表浜貝塚	集落、生産遺跡	平安
4	東宮(鳳寿寺)貝塚	丘陵斜面	縄文後・晩期、弥生、平安	30	高山横穴墓群	横穴墓群	古墳後期
5	丑山遺跡	散布地	弥生、平安	31	長須賀遺跡	生産遺跡	縄文、平安
6	小友遺跡	散布地	弥生、古代	32	東原遺跡	散布地	古墳
7	丑谷辺遺跡	生産遺跡	古代？	33	鬼ノ神山横穴墓群	横穴墓群	古墳
8	下田堤遺跡	生産遺跡	古代？	34	阿川沼貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生
9	水浜遺跡	集落・生産遺跡	平安	35	林崎貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生
10	水浜貝塚	貝塚	弥生、平安	36	諏訪神社前遺跡	貝塚、生産遺跡	縄文晩期、古代
11	水浜横穴墓	横穴墓	古墳	37	笹山貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生
12	土浜A貝塚	集落、生産遺跡	弥生、古代	38	柵形圀横穴墓群	横穴墓群	古墳後期
13	土浜B貝塚	集落、生産遺跡	平安	39	砂山横穴墓群	横穴墓群	古墳
14	峯貝塚	貝塚	縄文晩期、古代	40	薬師堂横穴墓群	横穴墓群	古墳後期
15	沢上貝塚	貝塚	縄文晩期	41	弁天A遺跡	散布地	古代
16	清水貝塚	貝塚	古代	42	弁天B遺跡	散布地	古代
17	清水洞窟貝塚	貝塚、墳墓	弥生、古墳、平安	43	弁天C遺跡	散布地	古代
18	影田貝塚	散布地	平安	44	大木館跡	城館	中世
19	神明遺跡	散布地	古代	45	柵形圀貝塚	貝塚	弥生中期
20	二月田(空墓)貝塚	集落、貝塚	縄文後・晩期、弥生、奈良	46	新田前貝塚	貝塚	古代
21	沢尻貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生、平安	47	大代(橋本圀)貝塚	貝塚	縄文晩期、古代
22	吉田神社遺跡	散布地	古代	48	橋本圀横穴墓群	横穴墓群	古墳後期
23	吉田浜(寺山)貝塚	貝塚	縄文早期	49	大代洞窟貝塚	貝塚	弥生
24	吉田城跡	城館	中世？	50	大代横穴墓群	横穴墓群	古墳後期
25	藤ヶ沢貝塚	集落、貝塚	縄文前・中期	51	特別史跡 柏木遺跡	生産遺跡	古代
26	君ヶ岡貝塚	集落、貝塚	縄文前・中期	52	馬放島貝塚	貝塚	平安

第2表 大木圀貝塚と周辺の遺跡

第2章 調査に至る経緯

平成23年9月21日未明に台風15号が東北地方を通過し、七ヶ浜町周辺も暴風と豪雨が記録された。翌22日に被害状況の確認のため、貝塚内の巡回を行ったところ、記録的な雨量により丘陵東側の斜面2か所で土砂崩れが確認された。崩落箇所を貝塚分布図と照らし合わせたところ、東側斜面に分布する貝塚(東貝層)のうち、A-8貝層とA-12b貝層にあたる部分であることが判明した(第2図)。崩落した斜面には土砂とともに貝層から流出した縄文土器や貝殻、骨などが露出しており、丘陵平坦部から雨水が流入し続けている状態であった。直ちに崩落した斜面全体をシートで覆い、斜面下の園路も安全面の配慮から通行禁止の措置を講じた。その後、宮城県教育庁文化財保護課へ被害状況の報告を行い、平成23年11月21日付でき損届を提出した。また、今後の対策について協議を行い、平成24年度に崩落箇所の復旧工事と貝層の内容把握を目的とした事前調査を実施することとなった。調査範囲は貝層の保護のため、必要最小限にとどめることとした。事業は、文化庁の平成24年度国宝重要文化財等保存整備費補助金(町内遺跡発掘調査等事業)を活用して実施することとなり、平成24年2月14日付で補助金申請を行った。平成24年4月10日付で補助金交付決定通知を受け、その後調査体制を整え、平成24年6月5日より調査を開始した。

第3章 調査の経過と方法

調査地点は、東貝層と呼ばれる丘陵東側の斜面に分布する貝塚の一部である。昭和47・48年度に実施した貝層分布調査により、貝層は丘陵平坦部を取り囲むように丘陵端部から斜面部にかけて分布しており、15の貝塚に区分できることが明らかになっている。これらの貝層については、北側斜面に分布する貝層を起点に左回りにA-1からA-12貝層との名称が付されている。A-12貝層は12a貝層と12b貝層に細分されている。

今回の調査地点2箇所について、それぞれA地点、B地点と呼称し、A地点が東貝層の南端にあたる「A-8貝層」、B地点が東貝層の北側にあたる「A-12b貝層」の北端部に該当する。A地点の崩落範囲は南北約12m、東西約13mに及び、流出した土砂は斜面下の園路を越え、さらに下方まで達していた。A地点付近は、過去に伊東信雄による調査(イ地点・昭和24年)や園路・側溝整備に伴う調査(昭和48・49年)などが行われ、以前から良好な貝層が分布する場所として知られている。B地点の崩落範囲は、南北約36m、東西約14mに及び、斜面下の園路に流出した土砂が堆積していた。斜面中段に2段の平坦面(幅約5m)があり、両平坦面の間斜面が主に崩落していた。B地点付近は過去の調査例はないが、西側約20mの緩斜面上には山内清男発掘地点(A地点)があり、縄文前期前葉(大木1式)の土器が出土したとされる。

発掘調査は斜面に沿って3本のトレンチ(幅0.5m)を設定し、貝層の堆積状況と貝層形成時期等の確認を目的として行った。発掘調査の測量基準点は、貝塚内に新たに設置した測量基準杭2点(T-1、T-2)を利用し、両地点の調査区付近に任意の基準杭3点(A-1、B-1、B-2)を設定した。また、両調査区ともに高低差が大きいことから、調査区内に必要な応じて2m間隔で真北に直交、平行する箇所に杭を設置し、これらを機械設置点及び方位視準点として利用した。

調査は、A地点が6月5日～12月22日、B地点が9月5日～12月12日の期間で行った。初めにA・B地点共に調査前の写真撮影、調査区の刈り払いを行った。その後、6mmメッシュの篩を使用して、

流出土内の遺物の取り上げを行った。各トレンチは地山を検出した段階で終了とし、出土遺物は流出土内出土のものを表採資料として取り上げ、そのほかはトレンチ別、出土層位別に取り上げた。層の枚数や堆積状況には違いがあることから、各層には堆積順序に即した任意の名称に付けた。A地点では、貝層に相当する層位を3層とし、堆積順序により上から3a層、3b層などのアルファベット小文字を付し、貝層の細分を行った。また、1・2トレンチに直交する方向の貝層の堆積状況を把握する目的で、1・2トレンチ間の断面を「南西壁」と呼称し、精査を行った。なお、1・2トレンチ及び南西壁において、断面観察から同一の層位と判断できる場合は層名を統一している。平成24年9月29日には、貝層の堆積が良好である1トレンチ北壁断面の土層転写を行った。B地点については、2トレンチで小規模な貝層を確認し、精査を行った。

図面の作成はすべて手実測で作成し、調査区では必要に応じて1/20縮尺の平面図・断面図を作成した。また、デジタル一眼レフカメラを用いて、必要に応じて遺構の検出状況と土層断面、完掘状況、遺物の出土状況及び調査地点全景などの記録写真の撮影を行った。撮影した写真の全データはDVD-ROMに記録保存し、撮影した写真の一部は紙焼きし、アルバムに保管している。

平成24年11月10日・16日・18日には一般向けにA地点の現地公開を行い、町民及び県内外の研究者などのべ65名の参加があった。現地公開では貝層断面、土壙墓、出土遺物、1トレンチ北壁の土層転写標本を公開し、A地点の調査成果の概要を説明した。

整理作業は平成24年11月10日～平成25年7月12日の期間で行った。出土地点・層位ごとに遺物の洗浄と注記、接合と修復作業を行い、資料化する遺物の抽出を行った。その後、出土遺物の実測・拓本・写真撮影、実測図・遺構図面のトレースを行った。A地点については、貝層(3層)出土の遺物のうち、帰属層位が明確なものは3a層、3b層など表記したが、詳細な帰属層位が判断できなかった遺物については「3層」と表記した。また、異層位間で接合したものや流出土と貝層出土の資料が接合したものについては、観察表に出土層位のデータを書き出した。異層位間での接合は、原則として下位の層の帰属とし、A地点では流出土内と貝層内の破片が接合した場合は、3層を帰属層位とした。

なお、貝層の形成時期の把握、出土土器の編年的位置づけと放射性炭素年代の比較を目的に、A地点の貝層出土の炭化物2点について、株式会社加速器分析研究所に委託して放射性炭素年代測定を実施した。また、A地点ST01出土の1号人骨の年代把握を目的に、肋骨の年代測定とコラーゲン分析を同研究所に委託して実施した。

第4章 発掘調査の成果

第1節 A地点の遺構

A地点では、縄文時代前期の貝層・遺物包含層と土壙墓1基(人骨1体)、ピット5基が検出された(第4・8図)。

1. 貝層(A-8貝層)・遺物包含層 (第5～7図、第3～6表、写真図版1～3)

貝層は調査区の中央部、北東方向に傾斜する斜面と平坦部に堆積している。貝層はすべてのトレンチで確認され、現地表面から0.6～1.1m下で検出した。層厚は1・2トレンチで0.4～0.6m、3トレンチでは0.25m、南西壁で0.5～0.6mである。純貝層はなく、混土貝層または混貝土層である。暗褐色～褐色の粘土質シルトで構成され、土色の違いから貝層とそれ以外の層を明瞭に区分できる。3s層は貝類を含まない黒褐色土層で、1・2トレンチ及び南西壁で確認されており、一定の分布を持つ層である。貝類はハマグリ、マガキ、ハイガイ、アカニシ、スガイ、ツメタガイなどが見られる。また、シカやイノシシ、マダイやマグロの骨が目立った。地山(5層)と貝層の間には、約0.1～0.25mの遺物等を全く含まない暗褐色土(4層)が堆積している。

貝層は調査区外に延びており、全体では南北約25m、南北8m以上の広がりを持つと考えられる。貝塚の南端は、調査区中央部、幅約8mの平坦部であることを1トレンチで確認した。貝層の東端は不明瞭であるが標高27m付近であると考えられる。斜面の崩落により貝層の一部が失われたが、貝塚形成当初の状況を良好に保っていることが明らかになった。

1・3トレンチの12～14層は、斜面上部からの二次堆積層で、12層は斜面崩落以前の表土、13層は炭化物を含むシルト層、14層は地山上面に堆積する黒褐色のシルト層である。A地点周辺では過去数度の発掘調査が行われている。昭和49年に行われたCF42・CH42地点の調査では、大木1式を主体とする縄文前期前葉の土器が出土している。

2. 遺構

【ST01 1号墓】(第4・8・9図、写真図版4-1～4-4)

〔位置・検出面〕 1トレンチ南西端の平坦面、5層上面で検出した。貝層と切りあい関係はなく、貝層と土壙墓の新旧関係は不明である。

〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は皿状である。

〔規模〕 長軸1.0m、短軸0.65m、深さは残存で0.34mである。

〔堆積土の特徴〕 5層(地山)を掘り込んで作られおり、凝灰岩粒と炭化物を含む黒褐色土が堆積している。

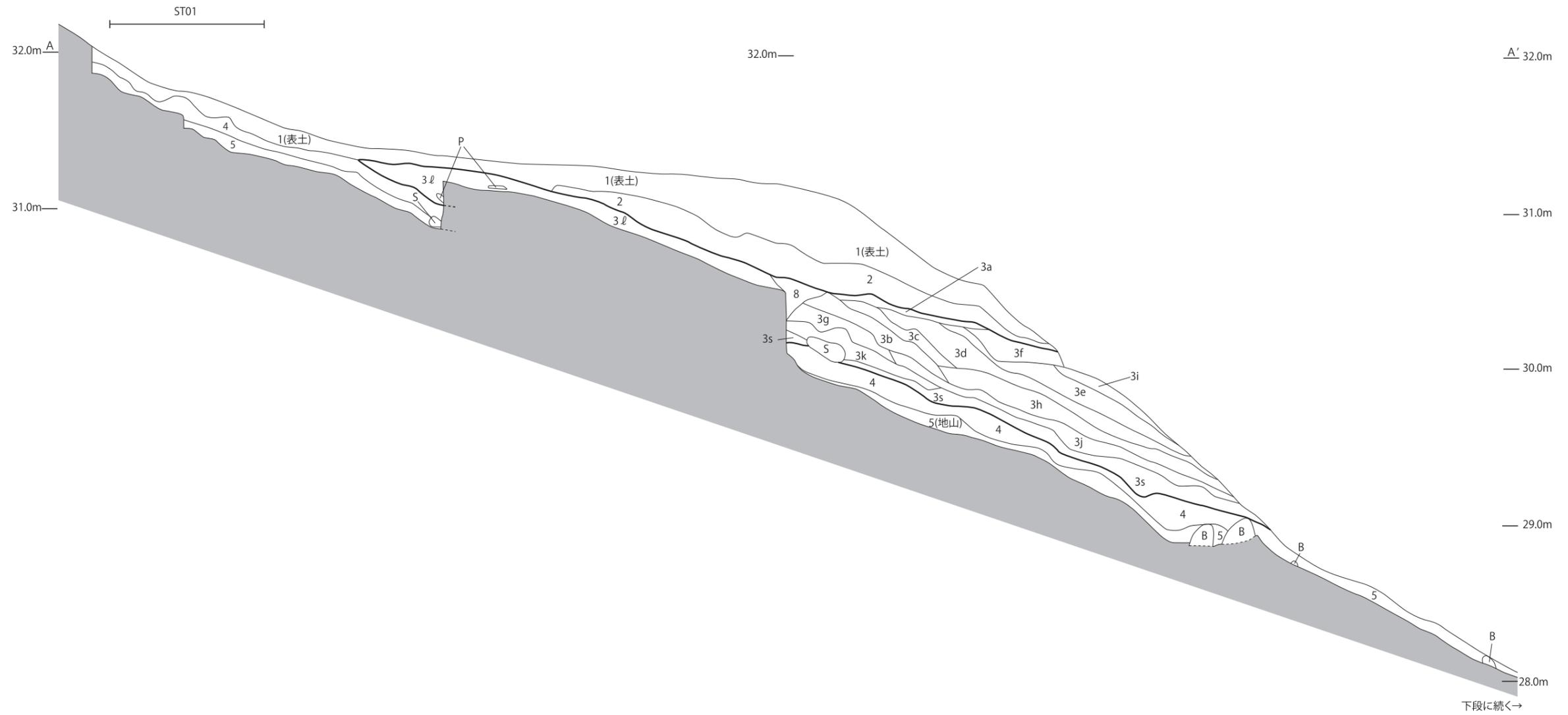
〔埋葬方法等〕 脚部を折り曲げ、頭位を西側、顔を南側に向けた屈葬である。上切歯は咬合面が摩耗している。

〔遺物〕 人骨に伴う遺物はなかったが、1層と4層から胎土に繊維を含む土器が18点出土した。1は単節斜縄文、2・3は結節回転文の土器である。2・3は大木2a式と考えられる。

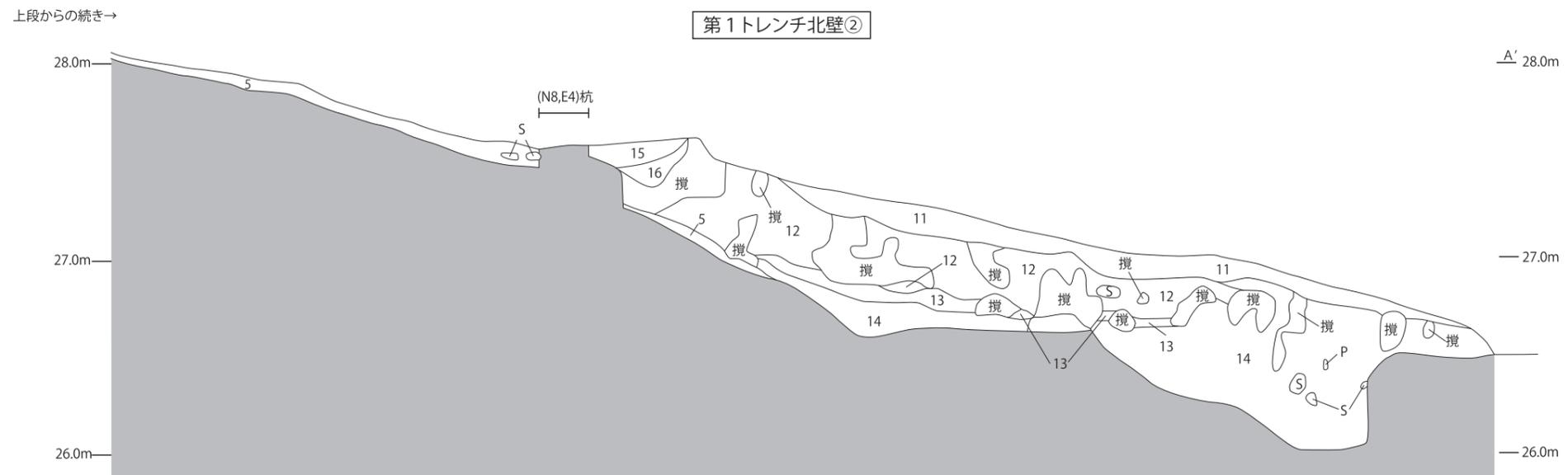
〔年代〕 人骨に伴う遺物はないが、人骨の歯の形質などから縄文時代の土壙墓及び人骨と考えられる。後述するが、人骨(肋骨片)の放射性炭素年代測定では、縄文時代前期前葉の年代値が得られている。

〔その他〕 人骨の遺存状態は良好であったが、非常に脆い状態であったことから人骨の取り上げを断念し、写真撮影・実測図作成後、埋め戻しによる保護措置を講じた。

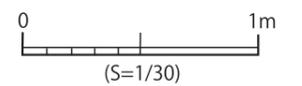
第1トレンチ北壁①

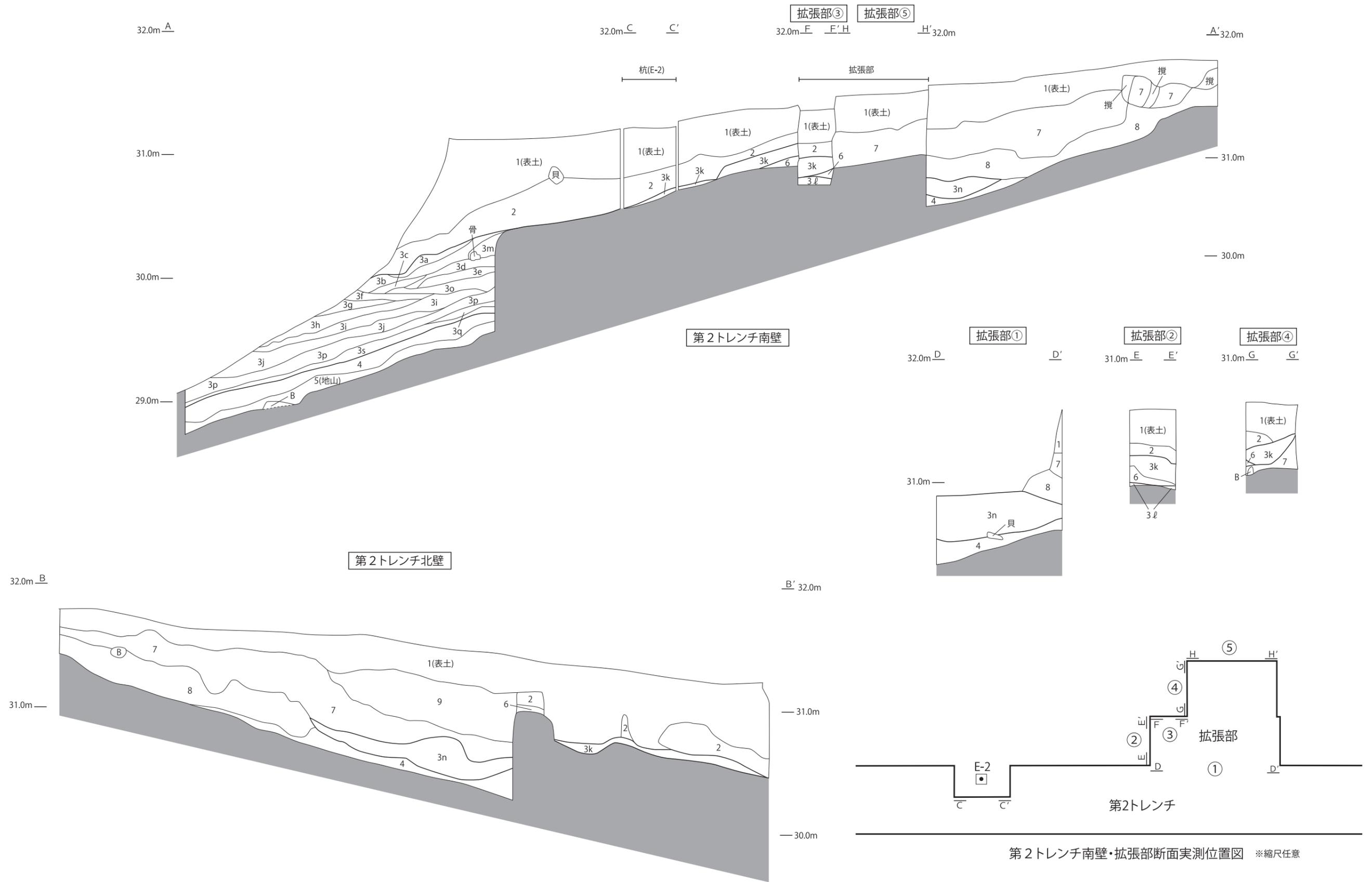


第1トレンチ北壁②

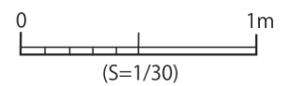


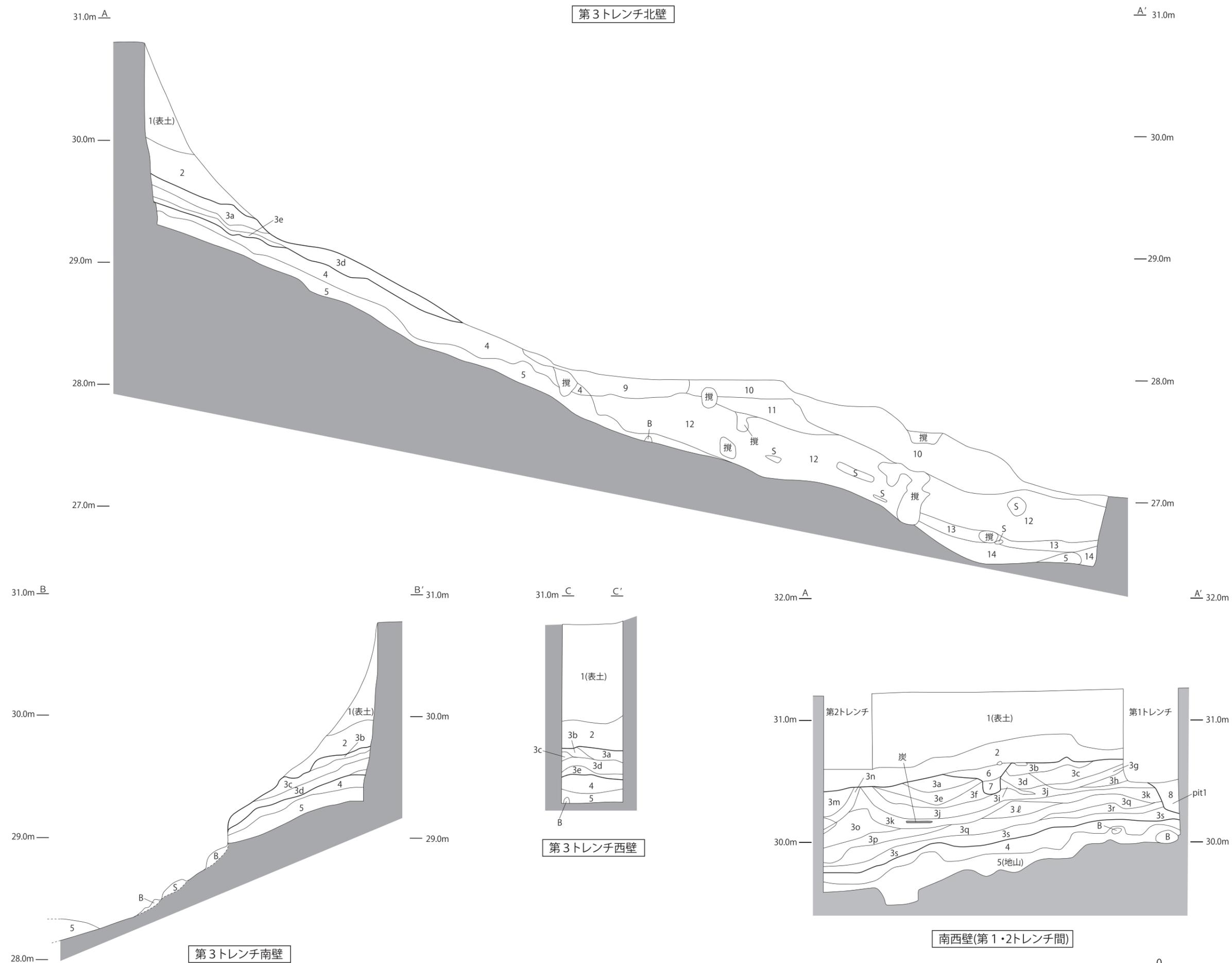
第5図 A地点 第1トレンチ断面図





第6図 A地点 第2トレンチ・拡張部断面図





第7図 A地点 第3トレンチ断面図・南西壁断面図

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/3	旧耕作土 貝殻、土器片を含む
2	土層	シルト	黒褐色 7.5YR2/2	貝殻、土器片を含む
3a	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、土器片を含む
3b	混貝土層	粘土質シルト	褐色 7.5YR4/3	貝殻・魚骨・炭化物を含む
3c	混貝土層	粘土質シルト	褐色 7.5YR4/6	貝殻(カキ等)、魚骨、炭化物を含む
3d	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・カキ等)、魚骨、土器片、炭化物を含む 魚骨・鱗の層あり
3e	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻(ハマグリ・ハイガイ・カキ・アサリ等)、魚骨を含む
3f	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(アカニシ・ハマグリ等の二枚貝、巻貝)、魚骨・炭化物を含む
3g	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 7.5YR3/4	貝殻(ハマグリ等)、炭化物を含む
3h	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・シオフキガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3i	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、炭化物を含む
3j	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・カキ・スガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3k	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・ハイガイ・カキ等)、炭化物を含む
3ℓ	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3s	土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	炭化物を含む、縄文前期(大木2b式)の大形破片出土
4	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(3~5mm)を含む
5	地山	シルト	褐色 10YR4/6	ブロック状の凝灰岩を含む
8	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	Pit1埋土、貝殻を含む
11	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、炭化物、凝灰岩粒を含む
12	旧表土	シルト	黒褐色 10YR2/2	貝殻、樹根を含む
13	炭化物層	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、炭化物を含む Pit2を覆う
14	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	Pit2埋土、貝殻、凝灰岩粒(1~3mm)を含む
15	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/2	貝殻、土器片、炭化物を含む
16	流出土	シルト	暗褐色 10YR3/3	魚骨片、炭化物を含む

第3表 A地点第1トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/3	旧耕作土 貝殻、土器片を含む
2	土層	シルト	黒褐色 7.5YR2/2	貝殻、土器片を含む
3a	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨片を含む
3b	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨片、凝灰岩粒(1~2mm)を含む
3c	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、炭化物を含む
3d	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(ハマグリ・ハイガイ等)、魚骨、炭化物を含む
3e	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(カキ・ハマグリ・スガイ等)、魚骨を含む
3f	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、炭化物を含む
3g	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、炭化物を含む
3h	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、炭化物を含む
3i	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、魚骨、炭化物を含む
3j	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	貝殻、魚骨、炭化物を含む
3k	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(スガイ・イボニシ・コシダカガンガラ・カリガネエガイ等)を含む
3ℓ	混貝土層	砂質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(スガイ・カリガネエガイ等)、土器片、炭化物を含む
3m	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、動物骨、土器片、炭化物を含む
3n	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・アサリ・スガイ・コシダカガンガラ等)、土器片、炭化物を含む
3o	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、動物骨、炭化物を含む 南西壁3o層と同一層
3p	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、炭化物を含む 南西壁3p層と同一層
3q	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR2/3	貝殻(ハイガイ・ハマグリ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む 南西壁3q層と同一層
3s	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	炭化物を含む、上層から縄文前期(大木2a式)の土器片と鹿角出土
4	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(3~5mm)を含む
5	地山	シルト	褐色 10YR4/6	ブロック状の凝灰岩を含む
6	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	3k層と3ℓ層の間層 粘度が低い
7	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	過去の調査の埋め戻し土 貝殻等を含む
8	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	過去の調査の埋め戻し土 貝殻、ブロック状の粘土を含む
9	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	過去の調査の埋め戻し土 貝殻、凝灰岩粒(1~3mm)を含む

第4表 A地点第2トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/3	旧耕作土 貝殻、土器片を含む
2	土層	シルト	黒褐色 7.5YR2/2	貝殻、土器片を含む
3a	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・カキ・スガイ等)、魚骨、土器片、炭化物を含む
3b	土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、炭化物を含む
3c	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(ハマグリ等)、魚骨片、炭化物等を含む
3d	混土貝層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(ハマグリ・アサリ・アカニシ・スガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3e	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、魚骨、炭化物を少量含む
4	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(3~5mm)を含む
5	地山	シルト	褐色 10YR4/6	ブロック状の凝灰岩を含む
9	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/2	1層の二次堆積層
10	流出土	シルト	オリブ褐 2.5Y4/4	5層の二次堆積層
11	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、凝灰岩粒を含む
12	旧表土	シルト	黒褐色 10YR2/2	斜面下の旧表土、貝殻、樹根を含む
13	炭化物層	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、炭化物を含む
14	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻、凝灰岩粒(1~3mm)を含む

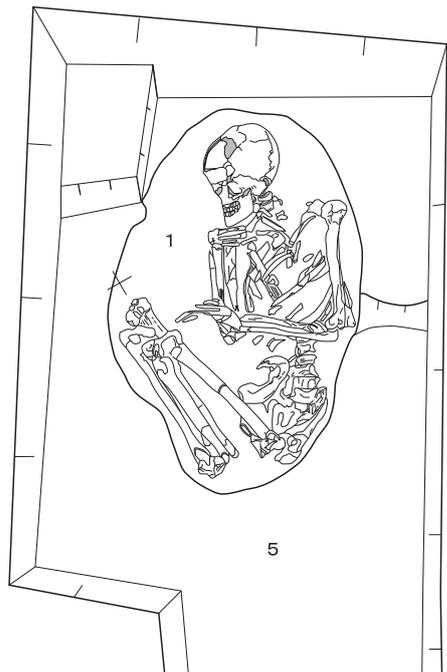
第5表 A地点第3トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/3	旧耕作土 貝殻、土器片を含む
2	土層	シルト	黒褐色 7.5YR2/2	貝殻、土器片を含む
3a	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、炭化物を含む
3b	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(3~5mm)を含む
3c	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(アサリ等)、動物骨、炭化物を含む
3d	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、炭化物を含む、火山灰?(2.5Y5/3 黄褐色)を含む
3e	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、炭化物を含む
3f	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 7.5YR3/4	貝殻、土器片、小礫、炭化物を含む
3g	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 7.5YR3/4	貝殻、炭化物を含む
3h	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 7.5YR3/4	貝殻、魚骨、炭化物を含む
3i	土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	土器片を含む、火山灰?(2.5Y5/3 黄褐色)を含む
3j	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 7.5YR3/4	貝殻、魚骨、炭化物を含む
3k	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・スガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3l	混土貝層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻(ハマグリ・カキ等)、魚骨を含む
3m	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3n	土層	粘土質シルト	褐色 10YR4/6	貝殻、凝灰岩粒(1~2mm)を含む 火山灰?(10YR6/6 明黄褐色)を含む
3o	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、動物骨、炭化物を含む 2トレ3o層と同一
3p	混貝土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	貝殻、魚骨、炭化物を含む 2トレ3p層と同一層
3q	混貝土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(ハマグリ・ハイガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む 2トレ3q層と同一層
3r	混土貝層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(ハマグリ・カキ・スガイ等)、魚骨、動物骨、炭化物を含む
3s	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	縄文前期(大木2a式)の土器片と鹿角出土
4	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(3~5mm)を含む
5	地山	シルト	褐色 10YR4/6	ブロック状の粘土が入る
6	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	貝殻を含む
7	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	魚骨を含む
8	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻を含む

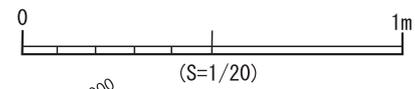
第6表 A地点南西壁土層観察表

+ X=-188279.000
Y= 18525.370

第1トレンチ



斜面・貝層方向
↓

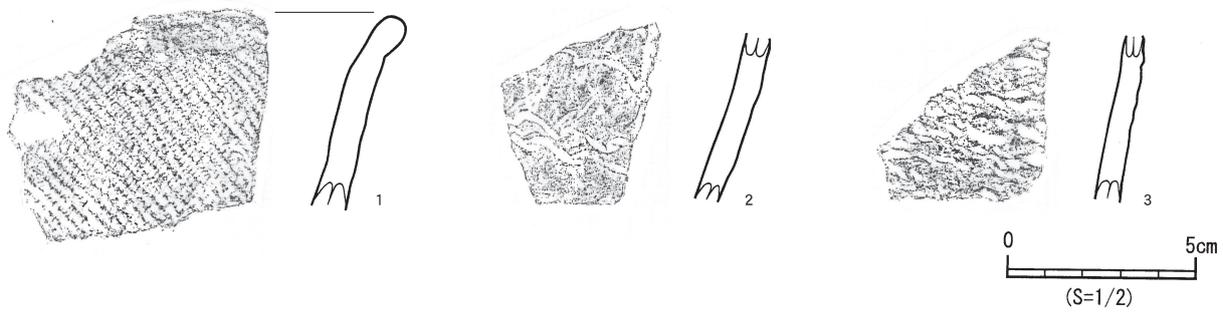


+ X=-188279.000
Y= 18529.370

A-2 X=-188277.000
Y= 18527.370

層名	分類	土質	土色	特徴
1	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	土壌埋土、凝灰岩、炭化物を含む
5	地山	シルト	褐色 10YR4/6	ブロック状の凝灰岩を含む

第8図 A地点(A-8貝層) ST01平面図



番号	層位	器種	特徴	繊維	登録番号	縮尺
1	1	深鉢	RL縄文	○	ST01-3	1/2
2	1	深鉢	結節回転文	○	ST01-1	1/2
3	4	深鉢	RL縄文結節回転文	○	ST01-4	1/2

第9図 A地点 ST01 出土土器

【Pit 1】 (第4図、写真図版3-5)

〔位置・検出面〕 1トレンチ中央部、3b・3l層上面で検出した。

〔重複関係〕 重複はない。1トレンチ3b・3l・3g層、南西壁3j・3k・3r・3s層を掘り込んでおり、これより新しい。

〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形はU字状と考えられる

〔規模〕 長軸0.4m、短軸0.22m以上、深さ0.3mである。

〔堆積土の特徴〕 貝殻片を含む黒褐色土(8層)が人為堆積を示す。

〔遺物〕 なし

〔年代〕 不明

【Pit 2】 (第4・10図)

〔位置・検出面〕 1トレンチ北東側、13層上面で検出した。

〔重複関係〕 重複はない。5層(地山)を掘り込んでいる。

〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は皿状である。

〔規模〕 長軸0.6m、短軸0.35m、深さ0.17mである。

〔堆積土の特徴〕 貝殻、凝灰岩粒を含む黒褐色土(14層)が自然堆積する。炭化物片を多く含む黒褐色土(13層)に覆われている。Pit2北側に0.35×0.3mの範囲に粘土の高まりを確認した。

〔遺物〕 13・14層から胎土に繊維を含む土器が17点出土している。1は棒状工具による刺突文を持つ口縁部破片で、大木2a式と考えられる。2はS字状撚糸文を施文した胴部破片で、大木2b式である。

〔年代〕 出土土器から縄文前期前葉と考えられる。

【Pit 3】 (第4図)

〔位置・検出面〕 1トレンチPit1の南西側、3l層上面で検出した。

〔重複関係〕 重複はない。3l層を掘り込んでおり、これより新しい。

〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は不明である。

〔規模〕 長軸0.4m、短軸0.25m、深さは不明である。

〔堆積土の特徴〕 黒褐色土が堆積する。

〔遺物〕 なし

〔年代〕 不明

【Pit 4】 (第4図)

〔位置・検出面〕 1トレンチPit3の南西側、3l層上面で検出した。

〔重複関係〕 重複はない。3l層を掘り込んでおり、これより新しい。

〔平面・断面形〕 平面形は長楕円形で、断面形は不明である。

〔規模〕 長軸0.33m以上、短軸0.2m以上、深さは不明である。

〔堆積土の特徴〕 黒褐色土が堆積する。

〔遺物〕 なし

〔年代〕 不明

【Pit 5】 (第4・10図)

〔位置・検出面〕 2トレンチ南側の3k層上面で検出した。

〔重複関係〕 重複はない。3k層を掘り込んでおり、これより新しい。

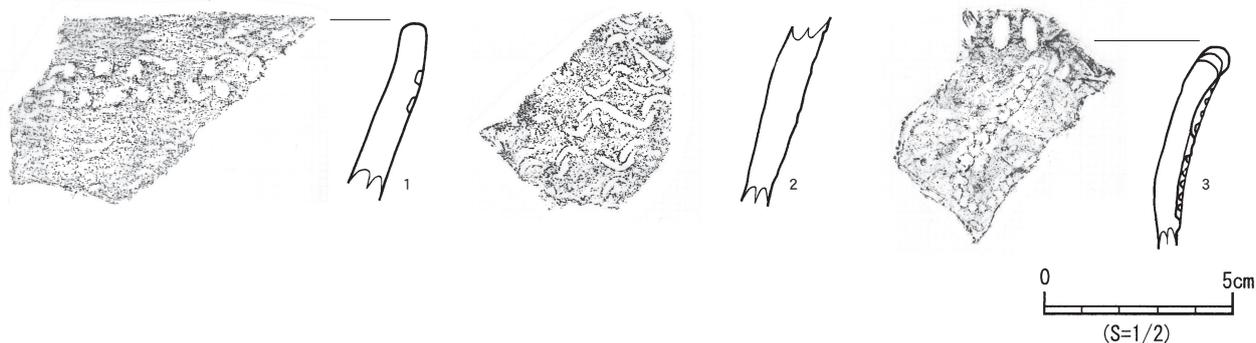
〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は皿形である。

〔規模〕 長軸 0.47 m、短軸 0.3 m、深さは 0.18 m。

〔堆積土の特徴〕 黒褐色土(1層)が人為堆積している。

〔遺物〕 堆積土から口唇部に刻目を持ち、刺突を持つJ字状隆帯を貼り付けた土器片が1点出土している。文様から大木3式と考えられる。

〔年代〕 2層を掘り抜いていることから、近代の攪乱と考えられる。過去の調査トレンチの一部の可能性も考えられる。



Pit2

番号	層位	器種	特徴	繊維	登録番号	縮尺
1	13	深鉢	棒状工具による刺突	○	1T-52	1/2
2	13	深鉢	S字状燃糸文	○	1T-53	1/2

Pit5

番号	層位	器種	特徴	繊維	登録番号	縮尺
3	1	深鉢	J字状隆帯→刺突、口縁部端刻、口唇部刻目	○	2T-S7	1/2

第10図 A地点 Pit2・Pit5 出土土器

【SX01】 (第4図、写真図版3-6)

〔位置・検出面〕 2トレンチ南西端の拡張部、3n層上面で検出した。

〔平面・断面形〕 平面形は方形または長方形で、底面は平坦である。

〔規模〕 長辺 1.3 m以上、短辺 0.5 m以上、深さは 1.2 mである。

〔堆積土の特徴〕 黒褐色土(7層)が人為に埋め戻された堆積状況を示す。3k、3l、3n層と切りあい関係にあり、これらより新しい。

〔遺物〕 7層から竹管による刺突文や単節斜縄文、羽状縄文、燃糸文などを施文した縄文土器片が出土した。

〔性格〕 7層が人為的な堆積を示すことから過去の発掘調査トレンチであると考えられる。町教育委員会の調査区の方角と異なることから、昭和24年の伊東信雄調査地点(イ地点)の一部である可能性が高い。

第2節 B地点

B地点では、2トレンチで貝層・遺物包含層1ヶ所、1・3トレンチで土壙2基を検出した(第11図)。

1. 貝層(A-12b 貝層)・遺物包含層 (第13～15図、第7～11表、写真図版6-1・2)

2トレンチで現地表面の約1.3m下から層厚0.5mの小規模な混貝土層(8～11層)を検出した。貝層分布図と照合すると、2トレンチはA-12b貝層の北端部に位置する。貝層は硬く締まった黒褐色のシルトで構成され、凝灰岩粒や貝殻片、炭化物を含む混貝土層である。各層はしまりが非常に強く、貝殻などはいずれも破碎されており、出土する土器も小破片であった。貝層は3トレンチで検出されなかったことから、1・2トレンチより東側には貝層が分布しないことが明らかである。貝層の主体部は2トレンチより西側の調査区外に分布していると考えられる。斜面上部に貝層の露出が確認されなかったことや流出土内に貝殻等もほとんど含まれていないことから、今回の斜面崩落に伴うA-12貝層への影響はほとんどなかったと言える。

1トレンチには、斜面上部からの流出土(2層)が厚く堆積していた。1トレンチ南西端からアサリやカキを含む混土貝層(6層)を検出した。非常に硬く締まった単独の層で、胎土に繊維を含む単節斜縄文の底部破片が1点出土した。

3トレンチでは、流出土とそれ以前に斜面上部から流出した土砂が厚く堆積している状況であった。出土する遺物も縄文前・中期と時間幅を持っており、斜面上部から移動し、再堆積したものと考えられる。

2. 遺構

【SK01 土壙】(第11・13・15図、写真図版5-3、7-1)

〔位置・検出面〕 1トレンチ中央部、7層上面で土壙の一部を検出した。11層(地山)を掘り抜いている。

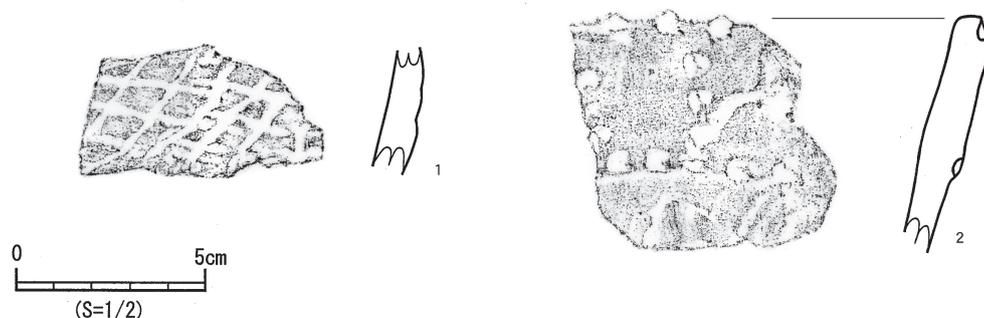
〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は袋状である。

〔規模〕 長軸1.15m、短軸0.3m以上、深さは0.5～0.7mである。

〔堆積土の特徴〕 土壙内は上層に7層、下層に10層の黒褐色土が自然堆積する。大形の礫を含み、10層下部に樹皮が含まれていた。

〔遺物〕 10層から土器片が19点出土している。1は網目状燃糸文を施文する胴部破片、2は半截竹管による刺突文を持つ口縁部破片である。

〔年代〕 出土土器から縄文時代の土壙と考えられるが、斜面上部からの流れ込みの可能性もあり、後世の土壙の可能性も考えられる。



番号	層位	器種	特 徴	繊維	登録番号	縮尺
1	10	深鉢	網目状燃糸文		1TPit1-1	1/2
2	10	深鉢	半截竹管による刺突文	○	1TPit1-S1	1/2

第11図 B地点 SK01出土土器

【SK02 土壌】(第12・13・15図、写真図版6-5、7-2~4)

〔位置・検出面〕 3トレンチ中央部、3a層上面で検出した。

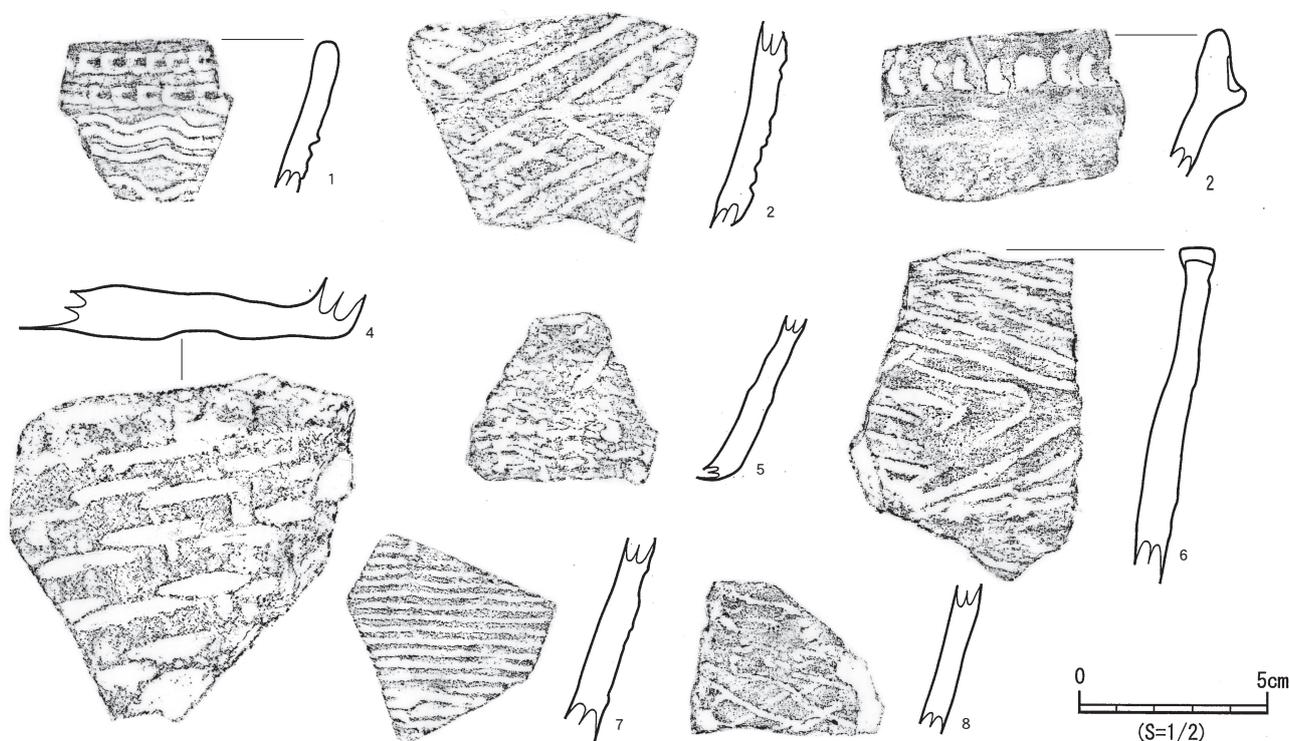
〔平面・断面形〕 平面形は楕円形で、断面形は中程に段を持つ形状である。

〔規模〕 長軸1.25m、短軸0.4m以上、深さ1.2mである。

〔堆積土の特徴〕 暗褐色土が自然堆積するが、礫の大小により3a・3b層に分層した。北東側には斜面上部から流れ込んだ大形の礫が堆積している。

〔遺物〕 2層及び3層から土器片が68点出土している。1・2はSK02上面を覆う2層出土土器である。3は隆帯によって区画された口縁部に半截竹管による爪形文を施文する。5は結節回転文、6は木目状燃糸文が口縁部まで施文されるものである。

〔年代〕 出土土器から縄文時代の土壌と考えられるが、斜面上部からの流れ込みの可能性もあり、後世の土壌の可能性も高い。



番号	層位	器種	特徴	繊維	登録番号	縮尺
1	2	深鉢	平縁、半截竹管による押引風刺突・波状文	○	3TPit1-1	1/2
2	2	深鉢	木目状燃糸文	○	3TPit1-2	1/2
3	3	深鉢	平縁、半截竹管による爪形文、隆帯		3TPit1-3	1/2
4	3	深鉢	底面：網代痕		3TPit1-7	1/2
5	3	深鉢	結節回転文	○	3TPit1-10	1/2
6	3	深鉢	平行燃糸文	○	3TPit1-8	1/2
7	3	深鉢	波状口縁、木目状燃糸文	○	3TPit1-5	1/2
8	3	深鉢	網目状燃糸文	○	3TPit1-9	1/2

第12図 B地点 SK02出土土器

第3節 出土遺物

A・B地点から出土した遺物は、縄文土器、土製品、石器、石製品、骨角製品、動物遺存体がある。出土遺物の整理では、特に土器資料について口縁部資料と胴部資料を中心に抽出し、図化等の作業を行った。本書においては、これらの図化した資料のうち、文様等が磨滅等により判断できないものや細かい資料を除き、遺存状態の良好な資料をさらに抽出して取り扱うこととした。また、破片資料が多く、明確な器形分類が難しいことから、文様構成による分類を行った。3層出土資料についてはトレンチ毎、層位毎に掲載し、流出土や1層、2層などは表採資料としてまとめて掲載した。以下でA・B地点の出土遺物の特徴等をまとめた。

A. 縄文土器

A-1. A地点出土土器(第16～38図)

A地点からは計3,292点出土し、このうち300点を図示した。器種はいずれも深鉢形で、そのほとんどが胎土に繊維を含む土器である。3層出土の土器のほとんどは破片資料で、器形を復元できるものは少ないが、表採資料に器形を推定できるものがある。

(1)第1トレンチ3層出土土器(第16・17・18図)

176点出土し、37点を図示した。そのほとんどが胎土に繊維を含む土器である。平縁と波状口縁があり、口縁部文様帯を持つもの(16図1～4)と口縁部文様帯を持たず、地文が器面全体に加えられるもの(16図14・15、17図1・7)がある。底部資料はほとんどが無文の平底であるが、17図11のような網目状撚糸文や単節縄文が施文されるものがある。

口縁部文様については、隆帯上に刺突を施すもの(16図1～3)や隆帯と口縁部の間に斜位の短沈線を施すものがある。地文については、単節斜行縄文または羽状縄文(16図5～15、18図4・5)、結節回転文(17図1～3)、撚糸文(17図4～16、18図1・2・6)がある。羽状縄文には非結束と結束のものがある。撚糸文はS字状撚糸文が多く、その他に網目状撚糸文や平行撚糸文がある。18図6は3s層から出土した底部から胴部にかけての大形の破片で、S字状撚糸文が施文されている。胴部上半から口縁部にかけて欠損しているが、37図1のような口縁部が内湾し、頸部がくびれる器形であると考えられる。18図2・3のように地文のS字状撚糸文に多截竹管による円形沈線文が施文されるものや櫛歯状工具による重層波状文のものもある。内面調整はナデやミガキ調整があるが、16図13のように内外面ともにナデ調整のみの無文土器も出土している。

(2)第2トレンチ3層出土土器(第19・20図)

103点出土し、30点を図示した。図示した土器すべてが胎土に繊維を含んでいる。

平縁のものと波状口縁のものがあるが、19図10のように波頂部が二又になるものもある。口縁部文様については、円形竹管刺突(19図1)、半截竹管刺突(19図2・4)、隆帯上に矢羽根状の短沈線や刺突を施すもの(19図3)がある。地文については、単節・複節斜行縄文、ループ文、羽状縄文、組紐、付加条縄文、結節回転文(19図16～18、20図1～6)、撚糸文(20図7～12)がある。羽状縄文には、非結束と結束のものがある。撚糸文はS字状撚糸文が多い。20図6は結節回転文に刺突をもつ縦位隆帯が伴うものである。内面調整はナデとミガキ調整がある。

(3)第3トレンチ3層出土土器(第21・22図)

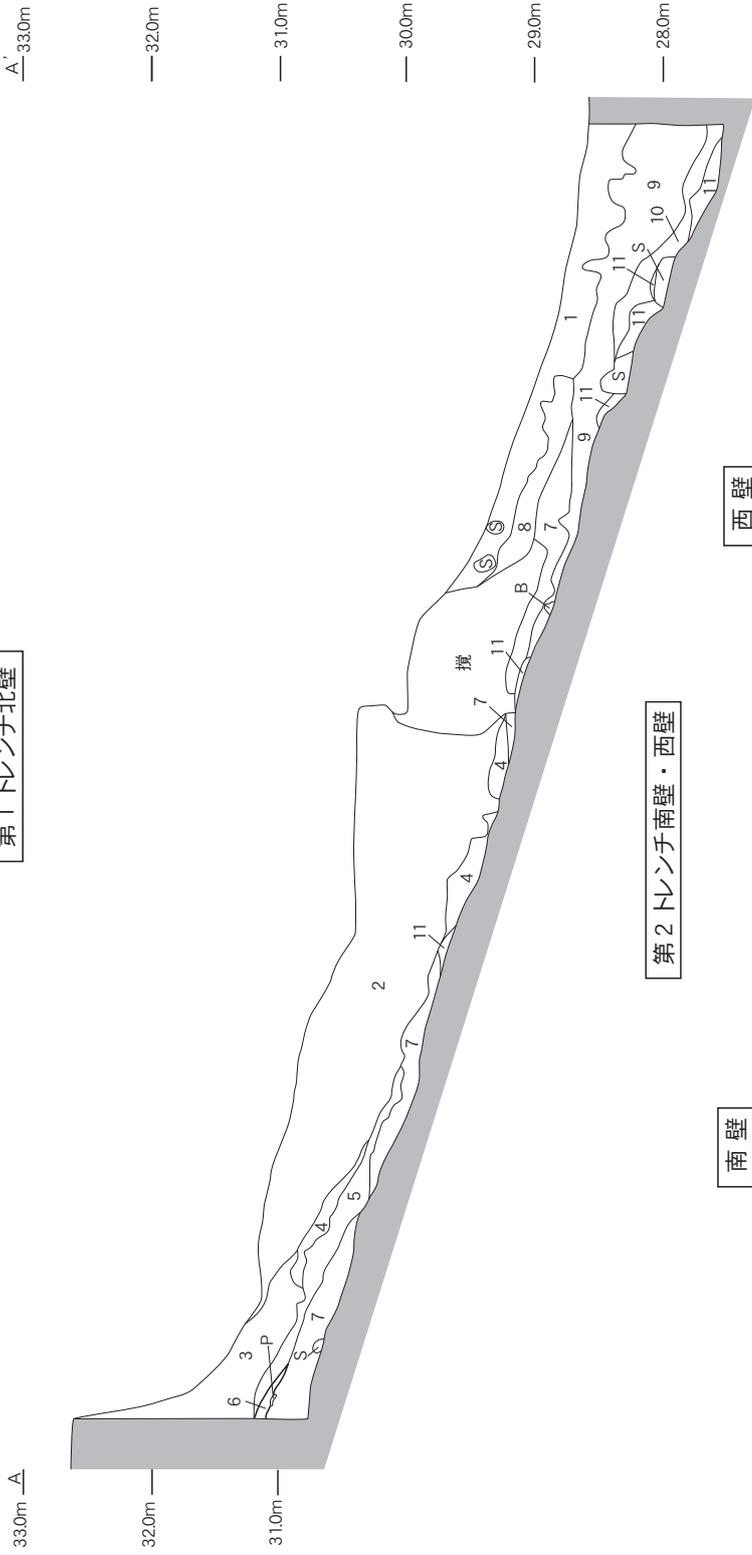
82点出土し、16点を図示した。

平縁と波状口縁がある。口縁部文様については、隆帯上に刺突を施すもの(21図1)や口縁部に2列

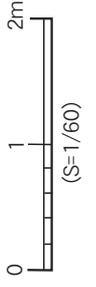
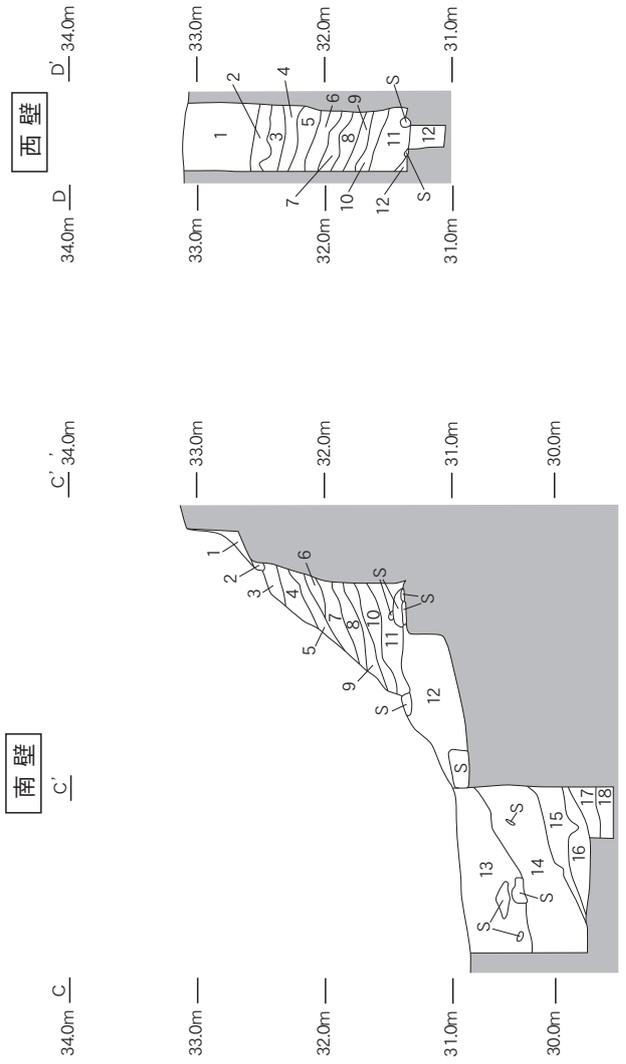


第13図 B地点遺構配置図

第1トレンチ北壁



第2トレンチ南壁・西壁



第14図 B地点 第1・2トレンチ断面図

29.0m — E

第3トレンチ南壁

E' 29.0m



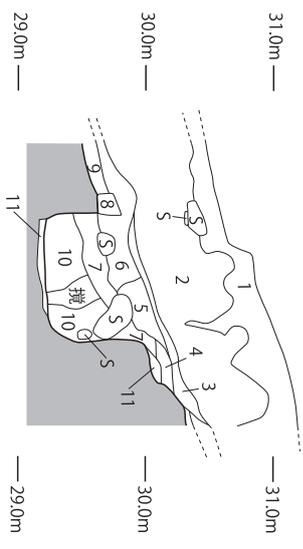
32.0m — B

B' 32.0m

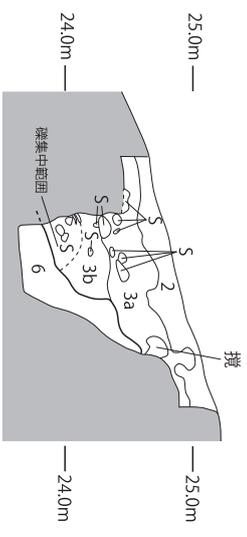
26.0m — E

SK02 南壁

E' 26.0m

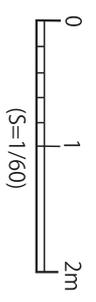


第1トレンチ



第3トレンチ

第15図 B地点 第3トレンチ・SK01・SK02断面図



層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/2	礫や根を含む
2	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/2	砂利や樹根、凝灰岩粒、貝殻片を含む
3	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、礫、根を含む
4	土層	シルト	黒色 10YR2/1	凝灰岩粒を含む
5	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒、炭化物を含む
6	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	貝殻(カキ・アサリ等)、土器、炭化物を含む
7	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒(1~20mm)を含む
8	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒を含む
9	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、根を含む
10	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒を含む
11	地山	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒を含む

第7表 B地点第1トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	暗褐色 10YR3/3	ブロック状(150mm)の粘土(2.5Y4/6 オリーブ褐)、凝灰岩、樹根を含む
2	土層	シルト	黄褐色 2.5Y5/6	凝灰岩粒(1~150mm)、礫を含む
3	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	ブロック状(120mm)の粘土(2.5Y4/6 オリーブ褐)、凝灰岩粒を含む
4	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、貝殻、炭化物を含む
5	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒、貝殻、炭化物を含む
6	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒、貝殻、炭化物を含む
7	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒、貝殻、土器片、炭化物を含む
8	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、貝殻、炭化物を含む
9	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、貝殻、炭化物を含む
10	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、貝殻、土器片、炭化物を含む
11	混貝土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒、貝殻、土器片、炭化物を含む
12	土層	シルト	暗褐色 10YR3/3	凝灰岩粒、土器片を含む
13	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒(40mm)、貝殻、樹根を含む 1トレンチ2層に対応
14	流出土	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒を少量含む 1トレンチ2層に対応
15	土層	シルト	黒色 10YR2/1	凝灰岩粒を含む 1トレンチ4層に対応
16	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒、炭化物を含む 1トレンチ5層に対応
17	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒(1~20mm)を含む 1トレンチ7層に対応
18	地山	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒を含む 1トレンチ11層に対応

第8表 B地点第2トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	流出土	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(1~5mm)、土器片、樹根を含む
2	表土	シルト	暗褐色 10YR3/3	凝灰岩粒(1~5mm)、土器片、樹根を含む
3	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒(1~5mm)、礫(200mm)、土器片を含む
4	土層	シルト	暗褐色 10YR2/3	凝灰岩粒(1~5mm)、土器片を含む
5	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒(1~5mm)、土器片を含む
6	地山	シルト	褐色 10YR4/6	凝灰岩粒(1~15mm)を含む

第9表 B地点第3トレンチ土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
1	表土	シルト	黒褐色 10YR2/2	砂利、樹根、現代のゴミを含む 1トレンチ2層に対応
2	土層	シルト	黒褐色 10YR2/3	凝灰岩粒(1~5mm)、樹根を含む
3	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒(1~5mm)を含む
4	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒(1~20mm)を含む
5	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒、炭化物を含む
6	土層	シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒、樹根を含む 1トレンチ2層に対応
7	土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒を極少量含む
8	土層	シルト	黄褐色 2.5Y5/6	凝灰岩粒(1~150mm)、礫を含む
9	土層	シルト	黒色 10YR2/1	凝灰岩粒を含む
10	土層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/2	凝灰岩粒、樹皮を含む
11	地山	シルト	暗褐色 10YR3/4	凝灰岩粒を含む

第10表 B地点SK 01土層観察表

層名	分類	土質	土色	特徴
2	表土	シルト	暗褐色 10YR3/3	凝灰岩粒(1~5mm)、土器片、樹根を含む
3a	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	礫(100~150mm)、土器片、樹根を多く含む 凝灰岩粒を含む
3b	土層	シルト	暗褐色 10YR3/4	礫(60~70mm)を多く含む 凝灰岩粒を少量含む
6	地山	シルト	褐色 10YR4/6	凝灰岩粒(1~15mm)を含む

第11表 B地点SK 02土層観察表

の刺突列が沿うもの(21図2)がある。また、21図1は口縁部と隆帯の間に弧線文が施文される。地文については、単節斜行縄文、複節の付加条縄文、羽状縄文、結節回転文、撚糸文がある。撚糸文はS字状撚糸文、網目状撚糸文がある。内面調整はナデとミガキ調整がある。

(4)南西壁3層出土土器 (第23図)

52点出土し、15点を図示した。

平縁と波状口縁があるが、1のように波頂部が二又になるものもある。口縁部文様については、幅広の平行沈線が口縁部に沿うもの(1)、隆帯状に刺突をもつもの(2)、矢羽根状の短沈線を施文するもの(3)がある。地文については、単節斜行縄文、付加条縄文、結節回転文、平行撚糸文、S字状撚糸文を施文するものがある。内面調整はナデとミガキ調整がある。

(5)第1トレンチ14層出土土器 (第24・25図)

1トレンチ12～16層からは斜面上部からの二次堆積と思われる128点が出土し、うち14層出土の19点を図示した。胎土に繊維を含むものと含まないものがある。

口縁部形状は平縁と波状口縁がある。口縁部文様帯については、隆帯上に刺突や刻目をもつもの(24図1・2)や多截竹管による沈線文(24図3・4)がある。地文は無節・単節斜行縄文、羽状縄文、結節回転文、撚糸文がある。撚糸文は網目状撚糸文、葺瓦状撚糸文、S字状撚糸文がある。内面調整はナデとミガキ調整がある。

(6)第3トレンチ12・13・14層出土土器 (第26図)

3トレンチ12～14層からは、斜面上部からの二次堆積と思われる183点が出土し、17点を図示した。

口縁部形状は波状口縁である。口縁部文様帯については、逆U字状の沈線文(1)や竹管による刺突や沈線文(2・3)をもつものがある。地文は、単節斜行縄文、結節回転文、撚糸文がある。撚糸文は平行撚糸文とS字状撚糸文がある。内面調整はナデとミガキ調整がある。

(7)表採土器 (第27～37図)

ここでは流出土から取り上げた土器と1、2層出土土器、過去の調査による埋め戻し土と考えられる2トレンチ7・8層出土の土器をまとめて表採資料として取り上げた。2,502点が出土し、160点を図示した。表採資料には、大形の破片や3層出土土器と接合する資料もあり、器形や文様構成を判断できる資料が出土している。

口縁部形状は平縁のものと波状口縁のものがある。器形は口縁部が外湾するもの(27図5・29図2・34図1など)口縁部が内湾するもの(30図16・31図1・32図10など)、口縁部が外傾するもの(30図3・9・17、32図4など)、頸部がくびれるもの(32図5・34図2・35図1など)がある。口縁部文様は、刺突や刻目を持つ隆帯文(27図1～3、29図2、30図1～11など)、半截・多截竹管や円形竹管、棒状工具による刺突文(27図6～9、29図4、30図12～19など)、沈線文(32図2～12など)、竹管による押引文(33図2・3)などがある。刺突文や刺突をもつ隆帯文が多段化するもの(27図3)もある。口縁部文様帯に結節回転文を施文するもの(35図5)もある。地文は、単節斜行縄文や羽状縄文、付加条縄文(34図7～9など)、結節回転文、撚糸文がある。撚糸文はS字状撚糸文が主体である。口縁部文様帯下に櫛歯状工具による波状文を施文するもの(30図16)、沈線による格子目文(37図3・4)、櫛歯状工具による刺突文を持つもの(37図7)などがある。内面調整はナデとミガキ調整である。

(8) 遺構外出土土器 (第38図)

調査前、2トレンチの北東2mの斜面の刈り払いを行った際に、クジラの肋骨片が露出した。これらを取り上げたところ、肋骨片8点の下に魚骨層が堆積しており(写真図版4-5・4-6)、周辺から土器片が出土した。これらの土器を遺構外出土土器として42点を取り上げ、11点を図示した。

口縁部形状は平縁と波状口縁がある。口縁部文様については、刺突を持つ隆帯(1・2)や沈線文(3)がある。地文は、単節斜行縄文(5・8)や結束羽状縄文(6)、結節回転文(7・9・10)、S字状撚糸文(4)がある。内面調整はナデとミガキ調整がある。